

事例 7-11

取組名	「気寄り」を維持するための仕組みづくり		
町会名	うちだ 内田第5町会（内田地区）	町会 データ	・人口／256 人 ・世帯数／104 世帯 ・高齢化率／39.5% ・町会加入数／83 世帯 ・常会数／6 常会
取組概要	昔からある「気寄りの良さ」の維持に向けた方策の検討と展開		

背景・課題

- ・ 役員選出は、常会単位で決めているが、現状は問題なく決まっている。
- ・ 内田地区には町会が9つあるが、民生委員・児童委員の定員5人の内、2人を当町会から選出していたこともあり、お互い様の気持ちで何とか協力しようという「気寄りの良さ」を持っている。
- ・ 町内を流れる川の土手に草が繁茂したため、草刈りボランティアを募集したところ、20人程集まってくれた。年代は70代が多かったが、中には40代の人もいた。
- ・ 一方、以前は組で仕切り行っていたお葬式等が、コロナ禍を経てやらなくなった。お宅に訪問しても家の中は見せず、入りづらい雰囲気になり、近所での「おせっかい」がしづらくなっている。
- ・ R8年度には、内田地区運動会も無くなる予定で、お互いを気に掛ける「気寄り」を維持できる機会が減少している。

経過・取組内容

- ・ これまで地区運動会や球技大会の後には、必ず慰労会を実施していたが、参加者が少なくなったことから、行事への参加・不参加に関係ない、誰でも参加できる「交流懇親会」として開催したところ、30人以上の参加があった。

- ・ 単なる懇親会としてではなく、流しそうめんやたこ焼き、かき氷、綿あめのコーナーを設けて、交流しやすい「お祭り」のような雰囲気にした。

成果・今後の展望等

- ・ これまで「慰労会」だと参加しなかった独居の方が参加してくれた。
- ・ 次回は、「枝垂れサクラで焼き肉とカラオケ会をしよう」などのアイディアも出され、検討することになった。
- ・ やはり、地区や町会からの一方的な動員等で、住民を同じ方向に向かせるやり方には批判が大きい。今回の取組みで、住民のアイディアを活かしながら多数の選択肢を用意し、誰もが参加しやすい状況を創ることが有効だと感じた。
- ・ 今後は、今ある「気寄り」を維持していくため、様々な分野から「お世話」が好きな人を掘り起こしながら、住民同士が顔を合わせる機会を増やす方向で検討していく。

親睦交流会
流しそうめん

【ポイント】

- ▼ 「気寄り」が町会に必要なことを見出し、維持していくために町会事業の方向性を検討